

A B r i e f N o t e N o . 2 1 3

発行日：2012年5月18日

東北 葉桜の旅

吹田市 三輪 長司

1. 日程を変更するも荒天で葉桜ツアーに

伊丹～仙台空港発着のレンタカーツアーで東北の桜見物をした。主なところは弘前城と角館武家屋敷だ。昨年行くつもりをしていたが、直前に東日本大震災が起こって行けなくなってしまった。この二ヶ所は南北に離れているが、満開はほぼ同じで例年4月末だ。

そこで少し早めの4月23日からの予約をした。ところが出発4日前に現地へ確認してみると、寒い日々が続いたため桜の開花予想が遅くなり、4月24日頃は一本も咲いていないという。仕方がないので、キャンセル料を払ってツアーをキャンセルした。

キャンセル時点での桜の開花予想日は、4月29～30日だという。だとすれば満開は5月6～7日頃だから、改めて5月7日からのツアーへ日程変更した。ところがその後29℃を越える夏日が続いたため、開花日から2～3日で満開となり、更に具合の悪いことに、その後2日続けて豪雨があったためすべて散ってしまった。再度キャンセルを考えたけれど、キャンセル料が馬鹿らしいのと、雫石の小岩井農場の桜はこれからなので行くことにした。

2. 津波の爪あとが未だ残る仙台空港周辺

仙台空港は数年前に一度利用したことがある。空港のターミナルビルの美しさは以前と変わらない。空港のレンタカーのカウンターで送迎バス待ちの時、カウンターの女性に津波時の様子を聞いてみた。「3mの高さの津波がきて、空港ビルの一階は殆ど水没してすべてダメになり、瓦礫で埋まってしまった」という。空港は4ヶ月間営業中止したそうだ。

空港のまわりには何もない。すべて津波で流されてしまった。レンタカーの営業所も津波で流され、空港からかなり離れた場所にある倉庫業の敷地に仮設店舗を構えている。レンタカーの営業所までの道筋の両側には、未だに瓦礫の山が存在し、ところどころ壊れた家屋が無残な姿で放置されたままになっている。テレビや写真では何度も見たけれど、肉眼で見ると改めて迫ってくるものがある。送迎バスのなかでは皆無口になっていた。

3. 新緑萌える岩手の景観

東北の桜のシーズンに訪れたのは初めてだ。木々の新緑が美しく山桜も満開で美しい。岩手県に入った辺りから生えている樹木が違うのだろうか景色の雰囲気が変わってきた。道路も平坦で上下のうねりも殆どなく、広々とした明るい景観だ。

盛岡辺りからは岩手山が迫ってきてさらに景観が変わる。岩手山には美しい残雪が残っている。東北の山々は信州の山々と違って優しい形をしている。標高も2000m止まりだ。東北人の優しさはこの優しい風景からきているのだろうか、そんな気がして仕方がない。この辺りから雫石、安比高原にかけて雄大な景観が続くが、スマートな明るさが漂っている

る。山桜も関西では背が低く横に伸びているが、こちらでは背が高く縦に伸びている。土の色も違う。関西は茶、関東は黒に対し、赤茶色で明るくスマートな雰囲気が漂う。

広大な敷地を誇る雫石の小岩井農場と安比高原一帯は、岩手山麓にあつて日本離れしている。ここはまるでヨーロッパの高原風景だ。しかも民家は一軒もなく非日常の世界だ。

4.安比高原に建つ大規模オールシーズン・リゾート

宿は安比高原に建つ「安比グランドホテル」だった。このホテルはリクルート事件を引き起こしたリクルート社の元会長江副浩正氏が、彼の絶頂期に開発したリゾートホテル群である。そばの前森山全体が日本有数のスキー場として開発され、ホテル、ビラ、アネックス等、カラフルな建物が建ち並び、牧場も併設している大規模オールシーズン・リゾートだ。

このリゾートのデザインは、東京五輪ポスター、NTT マークなどを手がけた世界的デザイナー亀倉雄策氏の晩年の大作だそうだ。芸術作品と自称するだけあつて、シティホテルを超える規模と建築美を誇っている。現在の所有権は地元岩手県のリゾート観光会社に移っている。このホテルで3連泊した。大浴場の温泉も付いていた。

5.弘前城のシダレ桜は満開

さて肝心の桜だけれど、弘前(城)公園の桜は、完全に散ってしまつて葉桜だった。しかし弘前城本丸の敷地内にはシダレ桜が数多く植わつていて幸いこれが満開だった。またお堀に接した広場には、様々な種類の珍しい桜が多数植わつていてこれらも満開だった。



《弘前城のシダレ桜》

6.岩木山も残雪に光る

せっかく弘前まで来たのだからと「岩木山」へ足を延ばした。岩木山も残雪が光っていた。
”リンゴの白い花とお岩木やま”をイメージしていたが、白い花には巡り合わなかった。



《りんごの木と岩木山》

7.小岩井農場の一本桜は一幅の絵

今回の旅のお目当ては、岩手山南麓の雫石の小岩井農場にある「一本桜」だ。樹齢約 100 年の巨木だ。昔家畜の日よけに植えたものだという。大勢の人が写真を撮りにきていた。



《小岩井の一本桜と岩手山》

8. 凛とした雰囲気漂っている角館

東北の小京都、角館の旧武家屋敷のシダレ桜もすべて葉桜になっていた。黒い板塀が続く武家屋敷は凛とした雰囲気が漂っている。シダレ桜は夫々の武家屋敷の庭に植えられている。昔京都から嫁いできたお姫様が、京都を偲んで庭に植えたのが最初だといわれている。各々見事なシダレ桜だ。しかし庭はほとんど手入れされてなく板塀なども質素だ。いくつかの武家屋敷は公開されているが、敷地だけの屋敷跡も散見された。土産物屋になっている屋敷もある。この旧武家屋敷は、地域の貴重な文化遺産であり観光資源でもあるから、もう少し建物などに手を入れたほうがよいように思った。



《角館のシダレ桜》

今回のレンタカーツアーは3泊4日の行程で、総走行距離は1100kmだった。桜を求めて毎年あちこちへ旅しているが、こんなに満開を外したのは初めてだった。

しかし行けば行ったで新たな発見があった。例えば、弘前城の桜は明治になって公園として植えられたものだけれど、角館の桜は江戸時代に武家たちが自分達の連帯感を表すために植えられたものようだ。おのずから植えられた目的と対象が違う。この二ヶ所を比べれば角館の桜のほうが明らかに深みと趣がある。

日本には多くの桜が植わっているが、夫々が歴史と物語を併せ持っていると思われる。信州の見事なシダレ桜の多くは、江戸時代に墓守と稲の作付け時期を知らせるために植えられたものだそう。桜の歴史は日本人の歴史といえるかもしれない。単に写真を撮って終わるのではなく、これからも数多くの桜と出会いたいものだと思った。 ♪♪♪